



「あの日」からはじまる写真展 実施報告書

2018年3月15日

実施概要

- 名称 「あの日」からはじまる写真展
- 開催日程 2018年3月5日(月)～11日(日) 7日間
- 開催時間 9:00～20:00 (初日のみ10時から、最終日のみ19時まで)
- 開催場所 ピーポート甘木2階美術品展示コーナー
- 開催内容 写真とパネルの展示、RKB毎日放送特集の上映(視聴覚室にて)
- 主催 災害 NGO 結
- 共催 朝倉市
- 協力 朝倉市社会福祉協議会、朝倉市地域コミュニティ協議会、朝倉市立杷木中学校、朝倉市立松末小学校、麻生建築&デザイン専門学校、甘木・朝倉消防本部、西南学院大学、パーレンス小野屋、東林田 Lover's、福岡県立朝倉東高等学校、リバイブくまもと、Dragon Fly Service、JA 筑前あさくら、JVOAD、Pop-up Commons 準備委員会、RKB毎日放送
(敬称略、50音順にて表記)

実施実績

■期間中来場者数

来場者数						
3月5日	3月6日	3月7日	3月8日	3月9日	3月10日	3月11日
93	105	109	86	121	171	193
3月12日	合計					
21	899					

*3月12日の来場者は、事前に期間内の観覧が厳しい方からの相談があり、特別に開場しました。

■募金額

会場に九州北部豪雨募金箱を設置し、募金を募りました。

期間中の募金額合計は、**60,562 円**でした。募金は全て朝倉市へ提供しました。



会場の様子



▲会場全体図



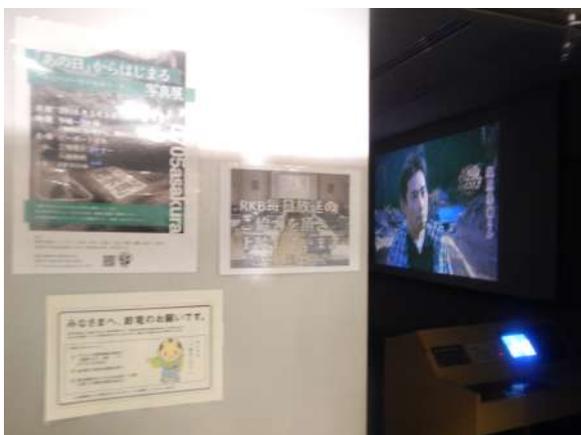
▲タブレットを使って写真と動画を展示



▲写真の他に解説パネルを展示



▲現在活動を続ける団体の情報も展示



◀隣接する視聴覚室で RKB 毎日放送が年末に放送したドキュメンタリーを毎時間上映



▲沢山の方にご来場いただきました



▲大学生グループが来場。
視聴覚室を使い、九州北部豪雨の
災害ボランティアについて解説を
行いました



▲地図とタブレットで被害の全容を把握できるコーナーでは沢山の方が見入って足を止めていました



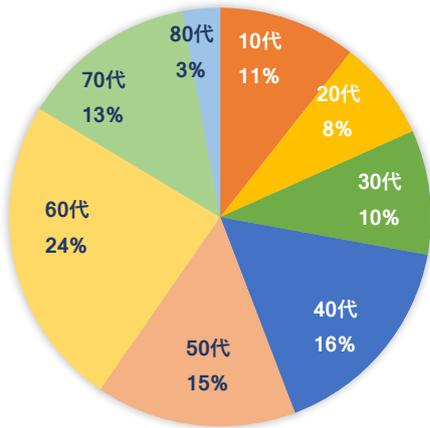
▲過去の災害の記録など多数の資料を自由に観覧できるように配置しました



来場者アンケート

■ 集計結果

来場者年代別



期間合計来場者数

甘木	341	古賀市	1
朝倉	51	粕屋町	1
杷木	117	大木町	1
久留米市	48	苅田町	1
福岡市	41	八女市	1
うきは市	35	篠栗町	1
筑前町	23	新河町	1
小郡市	17	大分県	15
大刀洗町	12	佐賀県	15
北九州市	10	熊本県	8
筑後市	7	長崎県	3
筑紫野市	6	鹿児島県	1
添田町	6	九州圏外	28
太宰府市	5	その他・不明	61
大野城市	5		
大牟田市	4		
春日市	3		
須恵町	3		
飯塚市	3		
糸島市	3		

老若男女、沢山の方に来場していただきました。来場者アンケートを集計したところ、60代以上が4割を占めましたが、大学生など若者世代も2割近くに上り、週末にかけて家族連れも多く、幅広い世代の方に来ていただきました。

受付で記帳していただいた住所を集計したところ、朝倉市内で6割弱になりました。更に朝倉市内でも開催した甘木地域からの来場者は4割近くに上りました。近隣だったため来やすかった、図書館や確定申告会場が同じ建物内だったためついでに寄った、という要因が関係している可能性もあります。また、会場でお話をお伺いすると被災後、甘木地域のみなし仮設に移った方も多く、その分甘木からの件数も多くなっています。次いで杷木からの来場も多く、発災当時は自分の周辺の対応だけで手がいっぱいだった方も、8ヶ月を経て他の地域のこと冷静に振り返ってもらう機会になったようです。

また、久留米市やうきは市、筑前町など近隣の市町村からも多く来場していただき、自分の地元市町村でも開催したい、との声もいただきました。逆に朝倉市から距離のある市町村からも複数来場がありました。市内での広報とSNS、メディア取材対応のみの事前広報だったにも関わらず複数の市町村から来場があったのは、それだけ九州北部豪雨への感心が未だあるからかもしれません。

さらに同じ九州圏内からも来ていただき、特に同じく今回被災した大分県や近い佐賀県など近隣県からの来場も複数ありました。



■写真展への感想 *アンケートから一部抜粋

- なかなか色々なこと場所の様子を見る機会が無かったので、今回被害の大きさを改めて感じた。やっぱり時間が経つとどんどん風化していってしまう。今自分にできること、ボランティアなどをやってみたい（20代女性、朝倉市杷木）
- ともすれば当時のつらい状況を思い出すことになっただろうに、写真を提供された方々に感謝です。市町村の社協や NGO などの取り組み具合によって差が生じるかもしれませんが、自然災害に対しては協働して立ち向かう必要があると思います（50代男性、福岡市）
- 見に来ることにすごく戸惑いましたが、勇気を振り絞って見に来ました。より多くの皆様に見て、今後の防災に役立ててほしいと思います（50代女性、朝倉市杷木）
- 皆様が一生懸命頑張っている姿を見て自分たちも負けちゃかれんと思った（70代男性、朝倉市内）
- 情報発信の大切さを改めて感じました。子供を産み杷木に帰ってきたので、これから何か関わっていきたいです（20代女性、朝倉市杷木）
- 近所なのに何も知らなかったのだと感じました（20代女性、うきは市）
- テレビ、新聞、報道で見るよりも生々しい写真です（70代男性、筑紫野市）
- 写真だけでなく、雨や作業状況の資料なども一緒にあって、被害の全容が分かりやすくよかったです。豪雨災害を冷静に考え直すことができました（10代女性、朝倉市内）
- 時がたった今、こういった写真展はとても大きな意味があると思います。できれば、福岡市や北九州市など、離れた地でもこういった写真展があれば、より多くの人に知ってもらえると感じました（20代男性、北九州市）